

令和6年12月20日（金）第2学期終業式式辞

今日で2学期が終了します。

2学期を振り返ってみますと、100周年記念行事の集大成である記念式典をはじめ、記念体育祭、記念農業祭や、一生の思い出を作った2年生の修学旅行など、学校行事が目白押しでした。それぞれの行事において地域の皆さんが本校に注目され、生徒の皆さんは、その度に多くの方と接し、コミュニケーション能力を高めることができたと思います。

また、部活動や農業クラブ、家庭クラブ活動では、それぞれ与えられた環境の中で、ベストを尽くしたのではないかと思います。果樹班の農業クラブ全国大会3年連続出場、農業鑑定競技6年ぶり入賞、作物班のお米甲子園金賞受賞、全国高校生パンコンテストにおける書類選考通過や大洲ご当地グルメコンテスト最終審査への出場等、本当に素晴らしい結果を残してくれました。

話は変わりますが、本校PTA会長である二宮聖さんが、100周年記念式典の中で、充実期成会会長として挨拶されたことは生徒の皆さんも覚えていると思います。西日本豪雨の被害に遭われ、心が折れかけた時に本校生徒のボランティア活動によって救われた話であったと思います。

11月末のある朝、校長室で日本農業新聞を読んでいますと、「若者よ、農に集え！」というコ

一ナーに二宮さんが投稿している記事に目が留まりました。タイトルは「何度でもやり直せる」でした。私はその記事を読み終えると目頭が熱くなりました。少し紹介しますと、

「突然、後ろから「何か手伝えることはないですか」と声がした。振り返ると、農業高校の女子生徒が数人立っていた。急にハウスの中が、ごみ拾いや手伝う女の子たちの喋り声や笑い声で満ちた。女の子たちのおかげで、落ち込んでいた気持ちが晴れ渡り、悩んでいたことがばかばかしく思えてきた。「ごみがなくなったら、あとはトラクターで耕せばどうにかなる」と前に進む勇気が湧いてきた。」

式典で話された内容ではありますが、改めて活字で追うと当時の本校生徒の何気ない行動が西日本豪雨で被害に遭われた二宮さんをはじめ多くの人の手助けになっていたことを大変嬉しく思いました。そして、この何気ない行動を起こせることが本校生徒の良さであり、伝統であり続けてほしいと心から願いました。また、一度や二度の失敗でも地道に活動していけば、必ず、何度でもやり直せることを今の生徒の皆さんにも分かって欲しいと思います。

明日から冬休みとなりますが、生徒の皆さんも時間を大切に、部活動をはじめボランティア活動等に積極的に取り組んでください。

それでは、3学期の始業式に全校生徒が元気な姿で会えることを願って式辞といたします。